



第2会場●2F 自由研修室

司会／芳川 雅行 広島県教育委員会生涯学習課 主任社会教育主事
伊東 俊昭 大分県教育庁生涯学習課 社会教育主事

1 植田正治（うえだしょうじ）写真美術館の「オマージュ展」を核とした観光推進の参加型イベントの創造 13:30～13:55

－地域発信型写真美術の啓蒙と国立公園大山山麓の広域の集客挑戦－

幸形 信之（鳥取県伯耆町） NPO 大山中海観光推進機構 副理事長 「オマージュ」応援団

表記美術館で全国的に話題性のある故植田正治にささぐ「オマージュ（尊敬）」展が開催されるにつき、来館者へのサービスを抜本的に革新し、観光推進・集客確保に挑戦する地元密着・地元参加型のイベントを創造する。活動の中心は美術館、伯耆町役場の関係各課、「大山王国」、NPO 大山中海観光推進機構、「オマージュ」応援団などである。全国から多数の来館者を得るため美術館の特設観光案内所とインターネット上の特設ホームページで案内活動を展開した。成果は質量共に当初の目標を達成したことである。

2 豊後高田市「スクラム・プロジェクト」の子育て支援まちづくり 13:55～14:20

辛島 時之（大分県） 豊後高田市教育委員会 地域協育コーディネーター

豊後高田市が進めてきた少年教育の総合的事業の実績の上に平成17年度から開始した地域総参加の子育て支援まちづくりモデル事業。中学校区の公民館を中心に地域の住民が地域の子どもの活動に関わり、安全と環境浄化活動に取り組み、地域がスクラムを組んで子どもの教育を核としたネットワークシステムを構築し、地域の「協育振興」を目指している。

ティータイム 14:20～14:55

3 高校生ボランティアのまちづくり 14:55～15:20

－「知覧茶アピール」から「ふるさと大会」まで－

中村 宗義（鹿児島県） 知覧町教育委員会 社会教育主事

高校生によるボランティア活動を充実させるために、昭和60年「知覧町高校生クラブ（育成連絡協議会）」を結成。校区の学生役員が集まり、夏に行われる「高校生ふるさと大会（ボランティア大会）」の内容や運営方法について話し合う。また、町民体育大会、武者行例等の町イベントにも参加し、盛り上げる等、活動内容は多種多様。平成14年には「薩南工業高等学校茶ボラ」が立ち上げられ、年8回の知覧茶のアピール活動を行っている。現在の行政が育成連絡協議会に働きかける形から、高校生主導への展開が課題である。

4 「あいさつ日本一」の町を目指し、あいさつによる交流・友愛・活力の創造 15:20～15:45

－「あいさつボランティア大使」、「あいさつ名人」、「あいさつチャンピオン大会」がつなぐ地域の輪－

都 英幸（福岡県高田町）「高田町あいさつボランティア協会」事務局長

あいさつで明るい社会と子ども達の健やかな成長を願い、「あいさつボランティア大使」、「あいさつ名人」、「あいさつチャンピオン大会」等の工夫を学校、地域、職場、および路上で展開。現在会員数150名。会員の中には「あいさつボランティア大使」として小学校へ赴いたり、路上での「あいさつ運動」に参加している。「日本一あいさつする町」を目標に近隣市町にも拡大。1,200名余の「あいさつ名人」が誕生した。

5 総括討論 15:45～16:15